

## さやえんどう

農薬取締法上、「さやえんどう」は「実えんどう」や「えんどうまめ」とは別の作物である。  
(実えんどうの項目参照)

「さやえんどう」には、「さやえんどう」「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

————— 発病・加害時期  
===== 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋	まき											●	●
						収穫						は種	
苗立枯病	(リゾクトニア菌)											=====	=====
褐斑病				—————	—————								
うどんこ病				—————	—————								
アブラムシ類				—————	—————								—————
ナモグリバエ				—————	—————								—————

## 苗立枯病

### 留意事項

- 1 バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤は、リゾクトニア菌に有効である。

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 本ぼを土壤消毒する。(XⅢ土壤消毒2(4)参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐

【リゾクトニア菌 20~30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する  
は種または定植21日前/1回】

## 褐斑病

### 留意事項

- 1 QoI剤 (☐☐) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 密植を避け、通風を良くする。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [トップジンM水和剤](#) ☐ 【2000倍 前日/3回】

・ [スクレアフロアブル](#) ☐☐ 【2000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## うどんこ病

### 留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 密植を避け、通風を良くする。
- 2 窒素質肥料の過用を避け、リン酸・カリ肥料を十分施用する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [サンヨール](#) - 【500倍 前日／4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トリフミン水和剤](#) 3 【3000～5000倍 前日／5回】
  - ・ [シグナムWDG](#) 1 1 7 【1500～2000倍 前日／2回】
  - ・ [ハチハチフロアブル](#) 劇 3 9 【1000倍 前日／2回】

## ウイルス病

### 留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。
- 2 生育初期にアブラムシ類の防除に努める。

### 防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。【アブラムシ類の項参照】
- 3 除草を徹底する。

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【4000倍 前日／3回】
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [マラソン乳剤](#) 1 B 【豆類(未成熟) 2000～3000倍 7日／3回】
  - ・ [ウララDF](#) 2 9 【2000～4000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## ナモグリバエ

### 留意事項

- 1 防除開始適期は3月上旬である。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に刺激性があるので眼に入らないように注意する。
- 3 スタークル粒剤、アルバリン粒剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A  
【ハモグリバエ類 9kg/10a 株元散布 生育期（14日）/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を10日間隔で2~3回散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【3000倍 前日/3回】
  - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1500~3000倍 前日/3回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6  
【豆類（未成熟 除さやいんげん） ハモグリバエ類 2000倍 3日/2回】
  - ・ [ハチハチフロアブル](#) 劇 2 1 A 【1000~2000倍 前日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。